



# A to Z

面白くてためになる A から Z までの 院内情報誌

## 復刊 第 2 号

発行 2013 年 (平成 25 年) 4 月

編集者 医療法人社団尾崎病院 編集委員会

### 胃がん撲滅対策 —ABC 検診—

胃の中の細菌 (ヘリコバクター・ピロリ) が 1983 年、ウォレンとマーシャルにより発見され、ピロリ菌は慢性胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんなどの発生に重要な役割を果たすことが判明しました。また、除菌の検討は発見と同時に始まっており、現在は 3 剤併用で高い効果が得られています。

日本ヘリコバクター学会が 2009 年に発表した改訂版ガイドラインでは胃がんの予防を主たる目的として、ピロリ菌感染者の除菌を勧めております。しかし、ピロリ菌検索の保険適用疾患は長い間、限られていましたが、本年 2 月にピロリ感染胃炎が新たに認められました。

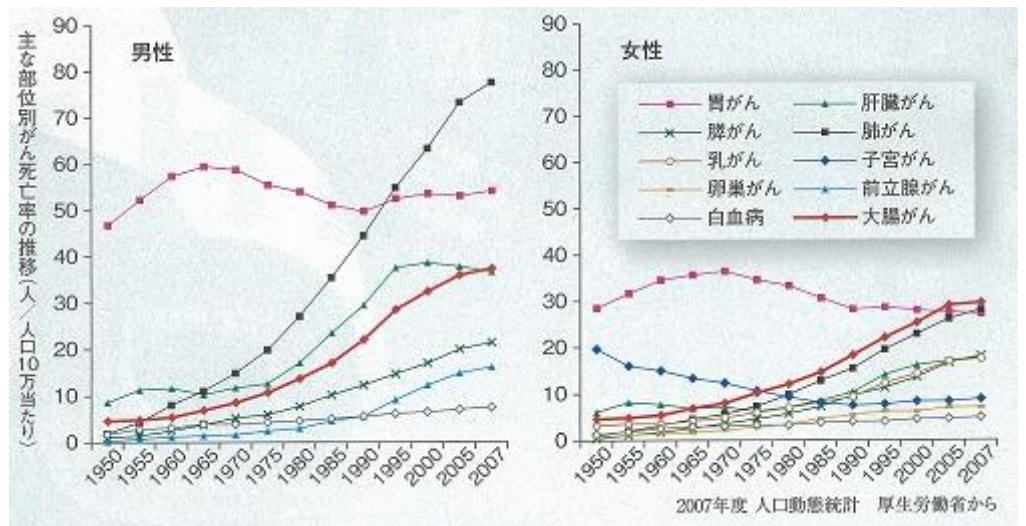
本院では ABC 検診を平成 23 年度より行っております。ABC 検診はピロリ菌および血清ペプシノゲン法陽性が胃がんの発生に深く関わっていることが分かってきたため、「ピロリ菌感染の有無を調べる検査」と「胃炎の有無を調べる検査」を組み合わせて胃がんになりやすいか否かを危険度分類するものです。2 年間で ABC 検診の受診者 69 名 (平均年齢 53.9 歳) とまだ少ないですが、ピロリ抗体価の陽性者は 43 名 (62.3%)、ピロリ抗体価と血清ペプシノゲン法とがともに陽性者は 19 名 (27.5%) です。

内視鏡検査において胃炎の確定診断がなされた患者がピロリ菌感染に係る保険適用の検査に加えられたので、積極的に感染の有無を調べ、陽性者には除菌を更に推し進めましょう。

胃がん死亡率 (図) は減少傾向ですが死亡者は多数です。

ABC 検診を推進するとともに、ピロリ菌を除菌することによって、胃がんの発生を防ぎ、数年後には胃がんの死亡者が激減することを期待します。

(病院長 植木壽一)



# ★ 舞理事長の頭の中なう Vol. 2 ★

サプライズとは英語では驚かせる、不意打ちの意味だが、日本ではさらに驚かせた後に喜ばせる計画や、それを実行することという意味もある。サプライズするためには相手のバックグラウンドや趣味、好きなものなどをよく知っていないとできない。リッツカールトンホテルでは、スタッフにはお客さんにサプライズする権利があると読んだことがある。お客さんとコミュニケーションをとることで、どういう理由でホテルを利用しているか、その日がお客さんにとってどんな日なのか、その日が結婚記念日であったり、還暦の祝いであったり、プロポーズの日であったりするかもしれない。でもそれは、聞かなければホテルのスタッフに話すことはないだろう。もし、このお客さんになにかサプライズができないか、と思って接すると自然にコミュニケーションを取ろうとするだろう。そして、その日が特別な日であれば、なにかサプライズをすることができるかもしれない。そのサプライズはするほうも、されるほうもグッと心に残る1日になるはずだ。病院でも（特に尾崎病院のような慢性期の病院では）そんなサプライズは可能ではないだろうか。それには相手やその家族と沢山の会話や関わりが必要だ。相手を知ることはサプライズするためだけでなく、相手に寄り添い、受け入れ、共感することにもなる。私は治療や看護、介護だけでなく、サプライズができる病院（そのための時間や労力が提供できる病院）があってもいいと思う。ただ、毎日が業務に追われている環境では相手を思い、看護以外のコミュニケーションをとることは難しい。現に今の私には治療以外の話をするゆとりがない……。ゆとり看護、介護、リハビリができるといいなあ。。。でも、ゆとりがなくても、サプライズしたいという思いがあれば、ちょっとした会話や気付きができるのではないだろうか。 サプライズケーキ、サプライズワイン美味しかったなあ！！

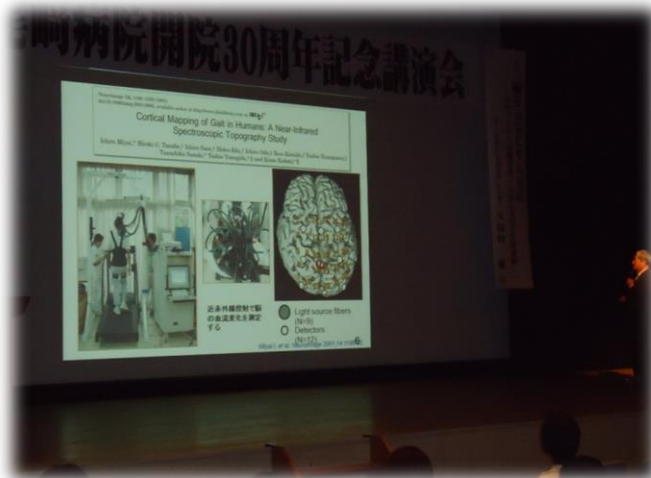


## <開院30周年記念講演会>

平成25年3月3日、とりぎん文化会館にて「尾崎病院開院30周年記念講演会」が開催されました。講師に京都大学名誉教授 医学博士 久保田競氏をお招きし、「脳を元気にする方法～赤ちゃんから高齢者まで元気になれる作業活動～」という演題でご講演いただきました。会場には一般、医療福祉関係者など約340名の参加者が集まり、普段聞くことのできない久保田氏の話に耳を傾けていました。

講演：久保田 競 氏

「脳を元気にする方法～赤ちゃんから高齢者まで元気になれる作業活動～」



久保田氏は、専門的な脳機能についての話に加え、「適度な運動は脳を活性化する。特に一日8000歩以上歩くとよい。」「卵の黄身に含まれる成分は脳の働きを活発にする」など、食生活や運動習慣の重要性についても分かりやすく解説されました。



展示スペースでは、病院スタッフによる“転倒予防教室”や“簡易車いす用クッション作成”の実演なども行われ、来場者は足を止めていました。

## <目指す病院像>

地域から信頼され選ばれる最高にやさしい病院

## <当院の使命>

人生後半のトータルサポート

## <2年経過、8年後の当院は>

### 慢性腎不全のスペシャリティ病院 & 地域包括ケアの中核病院

<これまで2年間の実績>

- 理事長専門医資格取得
- 隔離透析の実施
- フットケア療法の開始
- 各職種透析学会にて発表

<これからの取組み>

- 院内連携によるチーム医療
- フットケア療法の推進
- 慢性腎不全予防啓蒙活動

<これまで2年間の実績>

- 亜急性・回復期ICUの開始、増強
- 呼吸器等高医療度患者の受入
- 地域連携部の立ち上げ
- 訪問看護STの開始

<これからの取組み>

- 電子カルテ導入による院内・院外ネットワークの構築及び業務改善
- 患者層拡大に向けた取組み
- 看護・介護・接遇の質向上
- 介護病棟転換への対応

## <25年度の取組み>

### 「電子カルテ導入および質の向上」

- 一般病棟 13：1 に向け取組みの継続（病院全体の取組み）
- 療養病棟の患者層拡大に向けたスカルアップ（重症化への対応）
- リハビリ部門の質向上（スタッフ・・・個々人の技量アップ、患者向け・・・実施単位増）
- 在宅部門の強化（訪問の拡大、通所の短時間化）
- IT化に伴う業務見直しと病棟態勢の強化
- 患者・職員の満足度向上・・・看護・介護・接遇の質を追求

「6S」の徹底を通じて業務の効率化、“ゆとり”の創造  
健康増進事業の実施（患者・職員・地域住民向け）

## <25年度の検討事項>

- 一般病棟亜急性期増床の取組み（上期）
- 事業継続計画(BCP)の検討・策定
- 病室透析に向けた検討（上期）
- 介護病棟の展開

## <中央ロビー展示コーナー>



鳥取大学附属特別支援学校 高等部

芸術 ～文芸～

テーマを「仲間」と決め、一人ひとりの思いを書き込んでいきました。



にぎやかし隊

テーマ 「こいのぼり」



鳥取大学附属特別支援学校 高等部生徒作品



鳥取大学附属特別支援学校 中・高等部生徒作業作品

## ひなかざり

平成25年2月12日から3月6日、桃の節句に合わせて院内中央ロビーに華やかな雛人形が飾られました。患者さんやご来院された方々がおひなさまの愛らしさにひととき足を止め、和んでいらっしやいました。



## <新入職員>

平成24年12月1日～平成25年4月1日に14名が入職しました。

4月1日、入職式で理事長・病院長は、それぞれ次のように期待を述べられました。

理事長 **「毎朝、鏡を見て笑顔で出勤しましょう！」**  
常に良いコンディションで勤務できるよう体調管理すること

病院長 **「健康に気をつけて、楽しく働きましょう！」**  
楽しく働くためには、仕事に興味を持つこと

### お知らせ

○機器の更新・導入      CT装置が1列から16列のマルチスライスに更新されます（5月予定）  
電子カルテ導入に向け、検討を開始しました。

○にぎやかし隊      7月20日（土）“夏祭り”を開催予定です。



#### 編集担当者

廳 和子（看護部長）、山崎 美佳（介護病棟）、田中 将士（リハビリ科）、西垣 修兵（リハビリ科）、  
山崎 文絵（リハビリ科）、川本 直文（地域連携）、前橋 玲子（事務部）、曾我 真太郎（事務部）  
諸家 香代子（編集ボランティア）